

機械器具 58 整形用機械器具
一般医療機器 脊椎手術用器械 JMDNコード：70963001

uリヴィジョンセット

【形状・構造及び原理等】

1. 形状

- ① ロッキングスクリュー・リムーバー
(φ2.5mm、φ3.0mm、φ3.5mm)



- ② ブロークンスクリュー・リムーバー
(φ4.0mm用、φ5.0mm用、φ6.0mm用、φ7.0mm用、φ8.0mm用)



- ③ ホロー・リーマー
(φ4.0mm用、φ5.0mm用、φ6.0mm用、φ7.0mm用、φ8.0mm用)



- ④ エクステンションシャフト



- ⑤ ラチェット式T-ハンドル



- ⑥ コンテナ
・uリヴィジョン・トレイ



- ・uリヴィジョン・レイヤー



- ・uリヴィジョン・トレー (フタ)



2. 原材料

ステンレス、シリコン
(コンテナ：ステンレス、アルミニウム、シリコン、アセタール)

*3. 寸法等

外装に記載

【使用目的又は効果】

本品は、脊椎手術に用いるウーリッヒ社製の脊椎内固定器具に含まれるスクリューを抜去する際に用いる手動式の手術器具である。

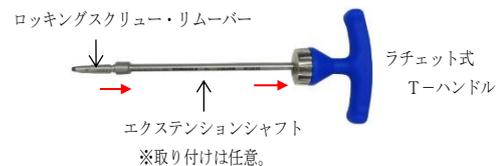
【使用方法等】

- 使用前に洗浄及び滅菌を行う。
- インプランテーションを行った時と同じアプローチで術野を展開する。
- 抜去が必要なスクリューの状態を確認し、次の状態である場合に本品を使用する。
 - ① ロッキングスクリューが磨滅或いは変形しており、スクリューが抜去できない状態。
 - ② スクリューが椎弓内で折損しており、刺入時に使用した器具ではスクリューが抜去できない状態。
- スクリューの状態①または②によって、次の操作を行う。

＜① ロッキングスクリューが磨滅或いは変形した状態＞

- ①-1 抜去したいスクリューのロッキングスクリューにロッキングスクリュー・リムーバーをそれぞれ合わせ、最適なリムーバーを選定する。

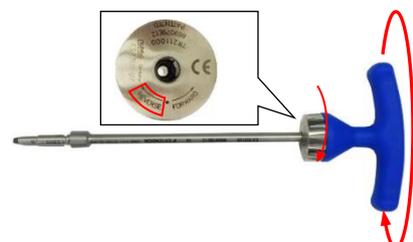
- ①-2 ラチェット式T-ハンドルにエクステンションシャフト（取り付けは任意）及び選定したロッキングスクリュー・リムーバーを取り付ける。（いずれも押し入れる）



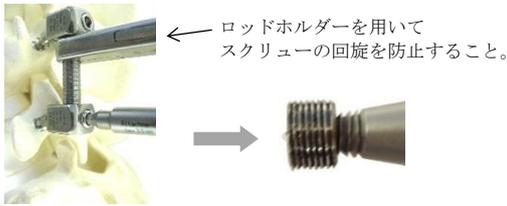
- ①-3 磨滅或いは変形したロッキングスクリューにリムーバーの先端を差し込む。



- ①-4 ラチェットを‘REVERSE’にセットし、強く押し込むようにハンドルを回旋させ、操作する。（タッピングの要領で行う）



①-5 このままの操作を継続するとロッキングスクリューが外れる。

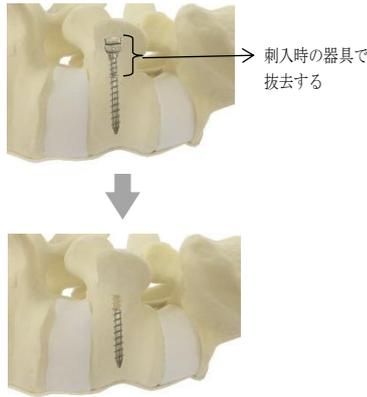


注意：ロッキングスクリューをタッピングして抜き出すため、リーマーの先端にロッキングスクリューが完全に噛み込み、取り外しが困難になる場合がある。

①-6 刺入時に使用した器具を用いてスクリューの抜去を行う。

<②椎弓内でスクリューが折損している状態>

②-1 刺入時に使用した器具を用いてヘッド側スクリューの抜去を行う。



②-2 抜去したスクリューの径を確認する。



②-3 椎弓内に遺残したスクリューを露出するため、次のように操作する。

1) スクリューの径に合ったホロー・リーマーを選定する。
注意：抜去するスクリューが遺残している椎弓の大きさによっては使用できない（椎体の破壊に繋がる）場合がある。

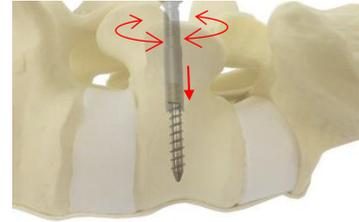
2) ラチェット式T-ハンドルにエクステンションシャフト（取り付けは任意）及び選定したホロー・リーマーを取り付ける。（いずれも押し入れる）



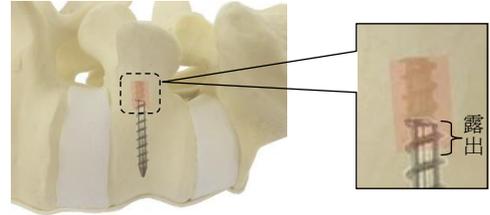
3) ラチェットを“・”（中間）に合わせる。



4) 左右回旋を繰り返し行い、スクリュー周辺の骨を削る。



5) 遺残したスクリューが5mm以上露出したことを確認する。



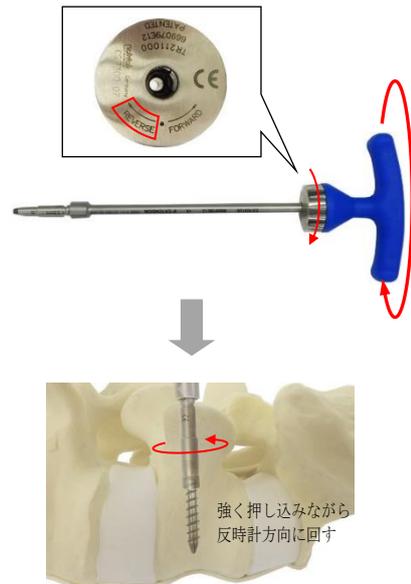
②-4 スクリューの径に合ったブロークンスクリュー・リーマーを選定する。

注意：ブロークンスクリュー・リーマーの外径が、先に使用したホロー・リーマーの外径と同等であることを確認すること。

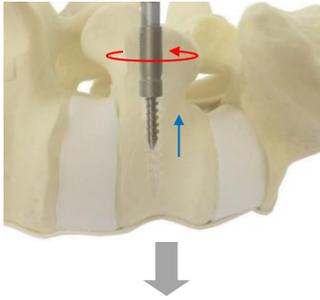
②-5 ラチェット式T-ハンドルにエクステンションシャフト（取り付けは任意）及び選定したブロークンスクリュー・リーマーを取り付ける。（いずれも押し入れる）



②-6 ラチェットを‘REVERSE’にセットし、強く押し込みむようにハンドルを回旋させ、操作する。



②-7 このままの操作を継続するとスクリューが抜去される。



スクリューのバリ等が残留するため、必ず除去する。



5. 使用後は速やかに洗浄及び滅菌を行い、適切に保管する。

***【使用上の注意】**

1. 重要な基本的注意

- ①本品は未滅菌のため、使用前に必ず洗浄及び滅菌を行うこと。
(【保守・点検に係る事項】の項を参照)
- ②リーマーの外径より当該骨表面が小さい時は使用不可。[椎体を破壊する恐れがあるため]
- ③リムーバーで抜去する際には金属粉が発生するため、除去すること。[画像撮影の際に影響を及ぼす恐れがあるため]
- ④本品がハイリスク手技に使用された場合には、プリオン病感染予防ガイドラインに従った洗浄、滅菌を実施すること。
- ⑤本品がプリオン病の感染症患者への使用及びその汚染が疑われる場合には、製造販売業者又は貸与業者に連絡すること。
- ⑥本品は度重なる洗浄・滅菌及び使用による金属疲労により、破損する場合がある。

2. 不具合・有害事象

① 重大な不具合

- ・本品の破損又は変形
- ・本品の機能不良

② 重大な有害事象

- ・血管、神経、組織、骨、内臓又は関節の損傷及び穿孔、出血、疼痛、硬膜損傷(髄液漏)、骨折又は神経障害等
- ・感染
- ・破損片の体内遺残
- ・アレルギー反応
- ・本品の不具合によって起こる手術時間の延長、手技の変更及び再手術

③ その他の有害事象

- ・患者及び手術従事者の負傷

3. 相互作用

[併用注意] (併用に注意すること)

- ・電気メスを用いた接触凝固は、術者が感電、火傷をする危険性があり、また、器械の表面を損傷するので、併用には注意すること。

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
電気手術器 (電気メス)	使用禁止	術者が感電、火傷をする危険性がある。

4. 高齢者への適用

骨密度が低下した高齢者は、術中に過度の力を加えることにより骨折又はインプラントの緩み等が起こる可能性が高いため、特に注意を払い慎重に使用すること。

****【保管方法及び有効期間等】**

①保管方法

洗浄後、腐食を防止するために必ず乾燥させ、滅菌トレー及び滅菌保管ケースに入れ、変形や損傷の原因となりうる硬い物への接触や衝撃を避けて保管する。

②保管条件

- ・埃や化学薬品の影響がないこと
- ・直射日光、水濡れを避けること
- ・常温常湿

****【保守・点検に係る事項】**

1. 洗浄方法

①洗浄に用いる水は、無菌または微生物汚染の少ないもの(最大100 CFU/mL、最大0.25 EU/mL)のみとすること(例:精製水/超純水)。

②機械洗浄、手動洗浄にかかわらず、本品使用後は速やかに(最大2時間以内)流水又はアルデヒドを含まない消毒液を用いて予備洗浄を行い、目視で確認できる汚染物を除去すること[消毒液にアルデヒドが含まれた場合、血液汚染が固着する]。

③分解可能な器具については、洗浄前に分解すること。

④中空構造を有する器具については、汚れが残存しないよう、必要に応じて使い捨ての注射器やカニューレ(製品の形状やサイズにより、最小容量10~50mL)を用い、5回以上の洗浄、すすぎを実施すること。

⑤可動部を有する器具については、汚れが残存しないよう、可動部を3回以上動かしながら洗浄すること。

⑥洗浄剤や消毒剤は、中性または弱アルカリ性の泡立たないものを用いること。
腐食防止剤(トリエタノールアミン)、溶媒(アルコール、アセトン等)、石油エーテル、酸化剤、アンモニア、アルデヒド、塩素及びヨウ素を含む洗浄剤や、その他の強アルカリ又は強酸性の洗浄剤、消毒剤は腐食の原因となるため、使用しないこと。

⑦付着物の除去や洗浄には柔らかいブラシまたは清潔で柔らかい布を用いること。
金属製のブラシや金属たわし、クレンザー(磨き粉)は使用しないこと。

⑧本品にはウォッシャーディスインフェクターの併用を推奨する。

熱水消毒条件	93℃
(EN ISO15883参照)	10分以上(Ao値:3000~)

⑨洗浄装置(超音波洗浄装置やウォッシャーディスインフェクター等)を使用する際、

- a. 鋭利な部位または部品同士が接触して損傷することがないように注意すること。
- b. 水が溜まらないよう器具の開口部が下向きになるようにすること。
- c. 接続部や継ぎ目がある場合は、部品間の接触を最小限にするため、開いておくこと。
- d. 洗浄剤、消毒剤及び洗浄機器の使用にあたり、製造業者の手術手技書に従うこと。

⑩洗浄後、器具が乾燥していることを確認し、必要であれば清潔な環境で、柔らかい布または濾過された油分のない空気を用いて追加乾燥させること。

①洗淨後、可動部に手術器械用潤滑剤を塗布すること。[完全に脱脂された状態で使用し続けると摩耗による動作不良の原因となる。]
潤滑剤は、高圧蒸気滅菌に対応し、生体適合性を証明されたものを使用し、滅菌時の最高温度を考慮すること。原則としてシリコン部分には塗布しないこと。

2. 滅菌方法

- ①汚れ又は洗淨剤が残った状態で滅菌を行わないこと。
- ②本品は未滅菌のため、使用前に必ず洗淨し、各医療機関により確認された条件にて滅菌を行うこと。

<製造元による推奨滅菌条件>

滅菌方法	滅菌条件
高圧蒸気滅菌 (推奨：プレバキューム式)	温度：132℃ 時間：4分以上 乾燥時間：20分以上

※乾燥時間は状況により異なるが、上表で指定した時間より短くしてはならない。

※本品の変性や劣化が生じるおそれがあるため138℃以上の温度条件にしないこと。

※ハイスピード滅菌、乾熱滅菌、放射線滅菌、低温プラズマ滅菌は推奨しない。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

<製造販売業者>

欧和通商株式会社：TEL 03 (5803) 7172

<外国製造業者>

日本語名：ウーリッヒ社（ドイツ）

英 名：u l r i c h G m b H & C o . K G
(Germany)

<問い合わせ先>

欧和通商株式会社 札幌営業所：TEL 011 (708) 7725

東京営業所：TEL 03 (3813) 8201

大阪営業所：TEL 06 (6304) 9305

福岡営業所：TEL 092 (526) 3618

住所等につきましては下記ホームページにてご確認願います。

ホームページアドレス <http://www.ohwa-tsusho.com>